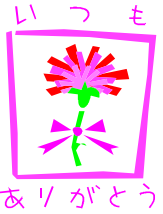


被災地と、みんなを結ぶ

つながろう！絆・連合



発行：連合（総合組織局・連帯活動局）

電話 03-5295-0513 FAX 03-5295-0547 rentai@sv.rengo-net.or.jp日本労働組合総連合会（連合） <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

地域・職場からの復興・再生を ～岩手から考えるシンポジウム開催～

3月28日、連合および連合総研は「地域づくりの担い手としての労働組合」と題するシンポジウムを開催しました。“大震災後2年の岩手から考える”として盛岡で開催し、全国の地方連合会事務局長、東北ブロックの構成組織から、200名が参加しました。



冒頭、参加者全員で黙とうをささげ、連合南雲事務局長の主催者挨拶、連合総研の研究成果報告に続き、公開討論会を実施しました。連合総研・龍井葉二副所長をコーディネーターに、ふんばろう東日本支援プロジェクトの西條剛央代表、岩手県釜石市の野田武則市長、連合岩手の砂金文昭会長をパネリストに迎え、公開討論を行いました。本紙では震災復興・再生に関するコメントを抜粋します。

■西條代表

企業も労組も目的は人を幸せにすることであるはず。その目的からぶれることなく、それぞれの組織がその特徴をいかして行動することが第一。動かないと可能性はゼロだが、動くことで可能性が生まれる。



■野田釜石市長

連合のボランティア活動に対しては、住民からの信頼も厚く、労組のネットワークの力の大きさも実感した。復興・再生に向けて、これからが大変だ。住民が住み続けることが出来るまちづくりをするためには、企業や労組の果たすべき役割は重要である。

■砂金連合岩手会長

震災後の様々な行動を通じ、労働組合のもつ機動力・機能性・ネットワークの広さを再認識した。“まず行動ありき”によって多くのエネルギーが組合員から寄せられた。ある労組では、寄せられた義援金を非正規や未組織従業員と分かち合うなど、共感や連帯も広がっている。

～全国の地方連合会事務局長、現地を歩く～



シンポジウムの翌3月29日、全国の地方連合会事務局長が岩手県の被災地を歩きました。訪問先は、宮古市宮古港、山田町の陸中山田駅周辺、大槌町の福幸きらり商店街、釜石市です。

復興・再生にはまだまだですが、街にはようやく電柱や信号が増えて一歩づつ前進しています。所々に掲げられた看板から、現地の力強い東北“ど根性”をお届けします。



↑福島に立ち寄ってシャッター!

再び列車が走る日を待つ
陸中山田駅
早くここまで戻ってこい!



↑陸中山田駅 ↓駅周辺



震災で全線不通になっていた三陸鉄道の南リアス線が、4月3日、約2年ぶりに一部で運行が再開されました。被害が大きかった岩手県沿岸南部では、初めての鉄道の復旧です。

まだまだ先は長いけど、これが第一歩です。TVニュースに写った「鉄道は町が生きている証しで、前進だ!」と語る地元の人、涙をぬぐう機関士、沿線を手をふる人... 着実に前進しています。

本ニュースは、全国の皆さんの声をベースに発行していきます。「こんな取り組みしているよ」「今、現地はこうなっている」などの声や写真をぜひお寄せください。お待ちしております!

連合連帯活動局・西野 TEL03-5295-0513 FAX03-5295-0547 rentai@sv.rengo-net.or.jp